



特集

ブリティッシュ・イングリッシュで聴く!

「7つのストーリー」で読み解く

イギリス史



「ダンケルク・スピリット」——イギリス人の心には、仲間の命を救い出そうと団結する精神があり、逆境に陥ったときはこの合言葉を使って立ち向かうことがあるのだという。この言葉の由来となった、第二次世界大戦中に起こった「ダンケルクの戦い」は、ドイツ軍に追い詰められた30万を超えるイギリスとフランスの連合軍兵士を救出した、史上最大の撤退作戦として誇り高く記憶されている。

イギリスという国、人々、また彼らのマインドを作り上げた背景とは? 歴史とは? 古代から近現代までの重要エピソードからその実像を探ってみよう。

*本特集はイギリス式の綴りで統一しています。

英文: コリン・ジョイス (Colin Joyce)

1970年、イギリス生まれ。オックスフォード大学で古代史と近代史を専攻。'92年に来日し、ニューズウィーク日本版記者、英デیلی・テレグラフ紙東京支局長を経て、現在はフリージャーナリスト。2010年、イギリスに帰国。著書に『「イギリス社会」入門』『驚きの英国史』(NHK出版新書)など多数。

和訳・文: 飯田恵美 英文校正: Dean Robson



画像: HiSunnySky/Shutterstock.com(pp.43-53)・John Opie/Wikimedia Commons(p.43, p.45右)・Myrabella/Wikimedia Commons(p.43, pp.46-47下)・N. C. Wyeth/Wikimedia Commons(p.43, p.48左)・The Granger Collection, New York/Wikimedia Commons(p.43, p.48右)・Jean Froissart/Wikimedia Commons(p.43, p.49中央)・Jean-Auguste Dominique Ingres/Wikimedia Commons(p.43, p.49左下・右下)・National Portrait Gallery, London/Wikimedia Commons(p.43, p.50右)・Gallery Prince Willem V/Wikimedia Commons(p.43, p.51下)・Everett Historical/Shutterstock.com(p.43, p.52上)・Teo Wei Keong/Shutterstock.com(pp.44-45上)・Wace/Wikimedia Commons(pp.44-45下)・Steven Fruitsmaak/Wikimedia Commons(p.45左)・Jorisvo/Shutterstock.com(pp.46-47上)・Andrew Hurley/Wikimedia Commons(p.47左)・Andrew Walker/Wikimedia Commons(p.47右)・Bernard's Badger/Wikimedia Commons(p.47右)・British Library Royal MS 14 C.VII/Wikimedia Commons(pp.48-49中央)・Walker Art Gallery/Wikimedia Commons(p.50左上)・Mitotico/Shutterstock.com(p.51上)・Hein Nieuwens/Shutterstock.com(p.53上)・George Hayter/Wikimedia Commons(p.53中央左)・Sidney Paget/Wikimedia Commons(p.53中央)・John Partridge/Wikimedia Commons(p.53中央右)・Torsten Lorenz/Shutterstock.com(p.53右下)・IWM Non Commercial Licence/Wikimedia Commons(p.54)・Ken Griffiths/Wikimedia Commons(p.55)



「イギリス史」の始まり

ロンドンの西200kmに位置するソールズベリー平原にそびえ立つ円陣状の直立巨石、ストーンヘンジ。その謎めいた形から、中世の人々は『アーサー王物語』に登場する魔術師マーリンによって造られたものと信じていたようだ。諸説あるが、このストーンヘンジは数段階に分けて作り上げられ、最初はブリテン諸島の先住民が、次に大陸から移住してきたビーカー人が、紀元前500年頃にはブリテン諸島に渡来したケルト人が造営したとされている。紀元前55年のローマ人による侵攻を受けるまで、ブリテン諸島はケルトの世界であった。

25 Roman Might —ローマ人、来る

The military prowess of the Romans has never been in dispute, but perhaps no people have been made more acutely aware of it than 1st-century Britons.

Julius Caesar was the first Roman to bring an army to Britain, in 55 BCE and again in 54 BCE. But these were largely symbolic excursions. It was Claudius, the fourth Roman emperor, who actually added Britain to Rome's dominions, in 43 CE.

It wasn't much of a fight. The Britons resisted but were defeated by the disciplined Roman legions in two battles fought in quick succession. Emperor Claudius himself travelled from Rome for the final stage of the conquest, reportedly bringing war elephants, which he paraded before the astounded Britons.

In the early years of Roman rule in Britain, there was a huge rebellion by the Celtic Iceni tribe led by Queen Boudica. In 61 CE, they attacked the Roman garrison at Colchester, destroying the grand Roman temple there and killing the Romans who took refuge within it. They then proceeded to sack the Roman settlements at what are now London and St. Albans.

Boudica's army is believed to have numbered well over 200,000 when it confronted the Roman general Suetonius and his 10,000 troops. But numbers alone were not

(古代)ローマ帝国の並外れた軍事能力に疑問の余地はありませんが、1世紀のブリトン人ほどその力を強く意識させられた者はいないでしょう。

ジュリアス・シーザー(ユリウス・カエサル)は、紀元前55年と紀元前54年に、ブリテン島に軍隊を上陸させた初めてのローマ人でしたが、これらは概して象徴的な遠征でした。実際にブリテン島をローマ帝国の支配下に置いたのは、第4代ローマ皇帝クラウディウスで、西暦43年のことでした。

大した戦いではなく、ブリトン人は抵抗するも、よく鍛錬されたローマ軍との二度の続けざまの戦いに敗れました。征服の最終段階においてはクラウディウス皇帝自身、ローマ帝国から(島へ)向かい、戦象^{かっぱ}を連れて、仰天するブリトン人の前で闊歩^{かっぱ}させたと伝えられています。

ローマ統治下初期のブリテン島では、ブーディカ女王率いるケルト人イケニ族による大きな反乱がありました。西暦61年、彼らはコルチェスターにあるローマ駐屯軍を襲撃、そこの大きなローマ神殿を破壊し、中に逃げ隠れていたローマ人を殺害しました。その後、現在のロンドンとセント・オールバンズにあったロー